

## 令和6年度 第2回「地球温暖化対策推進懇談会」 議事要旨

### 【開催概要】

#### 1 開会日時

令和7年1月29日(水)14時～15時45分

#### 2 開催場所・方法

千代田区役所 8階 第一委員会室 ※WEB会議との併用

#### 3 出席委員(13名)

渡邊委員(会長)、崎田委員、三坂委員、吉田委員(WEB参加)、小澤委員(副会長)、菅沼委員、大石委員(WEB参加)、武山委員、松本委員、久保委員、渡邊委員、秋元委員(WEB参加)、西田委員(WEB参加)

#### 4 欠席委員(4名)

長嶋委員、磯村委員、小牧委員、菊原委員

#### 5 オブザーバー(2名)

環境省地球環境局地球温暖化対策課

名越脱炭素ライフスタイル推進室主査(代理)(WEB参加)

千代田区 川又ゼロカーボン推進技監

#### 6 事務局(6名)

山崎環境政策課長、柳清掃事務所長、今津企画調査係長、安田ゼロカーボン推進担当係長、羽鳥エネルギー対策係長、高島事業企画担当係長

### 【次第】

#### 1 開会

#### 2 議題

- (1) 千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーンについて
- (2) 「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021」の進捗状況および令和7年度新規・拡充事業について
- (3) 第5次千代田区一般廃棄物処理基本計画の策定について

#### 3 その他

#### 4 閉会

### 【配付資料】

- ① 次第
- ② 委員名簿
- ③ 千代田区地球温暖化対策推進懇談会設置要綱
- ④ 【資料1-1】千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーン
- ⑤ 【資料1-2】環境配慮行動宣言の名称募集
- ⑥ 【資料2-1】「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021」の進捗状況について
- ⑦ 【資料2-2】令和7年度新規・拡充事業について
- ⑧ 【資料3-1】第5次千代田区一般廃棄物処理基本計画(案)【概要版】

⑨【資料 3-2】第5次千代田区一般廃棄物処理基本計画(案)

【議事要旨】

1 開 会

2 議 題

(1)千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーンについて

◇川又ゼロカーボン推進技監

<資料1-1、1-2 に基づき説明>

◆渡邊会長

・今までのCES推進協議会で行っていたことについて、より幅広く会員になってもらう機会を持つことと、インセンティブが見える化される形で広めていきたいという趣旨の計画と理解できると思うがよいか。

◇川又ゼロカーボン推進技監

・状況として、環境施策の裾野や対象が広がってきていることと、長い間この「千代田エコシステム」をやっていて、時代にそぐわなくなっている部分や普及啓発という意味でこ入れをしなければいけない部分が出てきている。できるだけ広くいろいろな方に支えていただけるような仕組みに変えていきたいということで見直しをしているところである。

◆崎田委員

・東京23区の都市部の地域では、今の説明のような多くの事業者さんがネットワークを10～20年作っているが、実効性が担保できていないような印象。今までの伝統をしっかり受け継ぎながら、それを本当に動くような形で提案された今回のキャンペーンは非常に力強いと思った。うまくPDCAを回して、修正しながらやってもらえると嬉しい。

・例えば、資料 P10の5番で「食品ロスを極力なくします」とあるが、ごみの分野でごみ減量が大事だということを皆さん分かっているなか、どこをポイントにするかというのが様々ある。食品ロスをなくし、その後の廃棄物もしっかり少なくし、それをどのように今後と比較していくかということは、ここ数年間のすごく大事なところだと考えている。

・毎年、全国の自治体のネットワークと開催地が主催をして政府各省が共催に入る「食品ロス削減全国大会」がある。今年は千代田区が手を挙げ、10月30日に開催するということが決まった。ぜひこういったきっかけをうまく活用しながら盛り上げてもらえると嬉しい。

・資料に「mottECO」とあるが、現在、mottECOコンソーシアムというホテルや外食など、自治体の大きなネットワークが今、広がりつつある。そのいくつかの中心企業が千代田区内にある。よって今回の食品ロス削減全国大会もこのmottECO企業の皆さんが応援してくれると思う。このような千代田区らしさというものを強く発信しながら皆さんで現実を変えていくことができると思う。

・先日、まちづくりの会合で秋田県五城目町の皆さんとお会いしたが、千代田区と連携していることについて本当に嬉しそうにされていた。今、五城目町は学校づくりをまちづくりに広げ

たという、まちづくりの世界で非常に有名で急上昇している町。町に1つしか学校がなくなってしまったことを活用し、町全体が参加して自分たちはどんな小学校が欲しいのか、世代や立場を超えて学校をつくるキャンペーンをやっている。そのような今の勢いや地域資源を活用してこちらと連携するなど、そのような勢いを活用されたらどうかと思った。

#### ◇川又ゼロカーボン推進技監

- ・「mottECO」については10月30日の食品ロス削減全国大会に向け、千代田区内で参加してもらえる飲食店が増えるように活動を強めていきたい。
- ・地域連携については、五城目町と現時点で具体的な再生可能エネルギーの供給というところは確立できていないが、協議はしているところである。姉妹都市の1つでもあり、森林整備の協定は既に締結しているが、今後、連携自治体との様々な協力、接点を増やしていくということは千代田区としても進めていきたいと思っている。

#### ◆三坂委員

- ・取組み自体は非常に素晴らしく良い取組みだと思う。
- ・私が大学で環境学を教えているときに気になっていることは、「個人の取組みや行動が良い」ということは学生もよく分かっている一方、「なぜ良いのか」「どうして良いのか」ということがよく分かっていないということがある。今は小学校・中学校・高校も含めて気候変動教育など、教育の面でプログラムに入っていないところがある。
- ・参加されている方の意識はもともと高いと思うが、この活動の裾野をどう広げるかということが大事だと思うので、やはり教育や啓蒙活動をもう少し広げていくようなことも併せて考えていただけるといい。特に千代田区は大学がたくさんある中で、協力をもらいながら小学校・中学校・高校・大学に対してどういう教育をしていくのかということも少し加えて検討いただけるとありがたいと感じた。

#### ◇川又ゼロカーボン推進技監

- ・裾野をどう広げるかという点はずっと感じて思い悩んでいる。基本的に環境省や千代田区など行政主催の環境関係イベントは、もともと環境に関心がある人しか参加しないというジレンマがある。脱炭素やゼロ・ウェイストなどの話になると、そのような一部の人たちだけではなく、全体に裾野が広がらなければ効果がしっかり現れないということがあるので、そこをどのように変えていくかは常に考えているところである。
- ・そういった意味で、協力という話もすごく重要だと思っている。千代田区内の区立学校を巻き込み、環境関係について何ができるかという話を去年の秋頃から校園長会や各校を回り検討しているところである。まずは関心を持っていただいている校長先生や学校と取り組んでみて、それを横展開していくような形で学校教育の中に含んでいきたいと思っている。
- ・ただ、今の教育課程というのは非常にタイトでただ単に追加となるとなかなか受け入れてもらえないところがある。既存の中でこれを環境関連としてやるという方策でうまく環境について学生に知ってもらうような機会を増やしていきたい。
- ・教育のほかにも裾野を広げるという観点で、多くの人に関心を持つ「スポーツ」「音楽」などの領域もあると思っている。昨年、Jリーグの本部が文京区から千代田区へ移転したこともあり、

Jリーグ事務局ともそういった協力をして何かできないかと検討している。また音楽では、岐阜県中津川市において太陽光発電だけで音楽フェスをやるという取組みを10年以上やっていて、このように音楽も今後うまく行動変容につなげていければと思うので、何とか裾野が広がるよう努力していきたい。

#### ◆西田委員

・エコアクションやエコライフ宣言は、ホームページから見たときに何をすればいいのかわかりにくい。エコライフ宣言の13個の行動から選ぶことになるが、そこを選んだ先の具体的な行動までの指針のナビゲーションをしてほしい。ホームページやSNSを活用し、エコライフ宣言の1つ1つを具体的に行動したいと思ったときにどういうところを見ればいいのかということまでナビゲートするなど、もう少し工夫した周知が必要だと思う。範囲の広いことで難しい部分はあると思うが、ぜひホームページやSNSを使って、宣言の内容が具体的にどういうものにつながってほしいのかわかりやすく表示される工夫をする必要があると思う。

#### ◇川又ゼロカーボン推進技監

・今回、宣言というものだけを紹介したが、おっしゃるように、実際ホームページの中ではもう少し具体的にナビゲーションできるようにしていきたいと思う。千代田区としていろいろ政策としてやりたいこと、やっていることを念頭に置いてこの13項目を作ったので、基本的にはそういった千代田区の政策に繋がっている。例えば先ほどのEサイクルちよだ、再エネ切替えや省エネの助成金制度、先ほどの千代田エコシステム(環境マネジメントシステム)もそうだが、まずは知ってもらうためにこの宣言を実施したいという発想があるので、その背後にある具体的な活動、それに対する千代田区の支援、そういったものがわかりやすくガイドできるような形にホームページも構成したいと思う。

・加えて、先ほど三坂委員の指摘でもあったが、内容的にあまり詳しくないような人に対してもより理解してもらえよう、背景やなぜこれが重要なのかなど含めた項目ごとの説明を端的に書いて紹介したいと思うので、そこから先の具体的なアクション、千代田区の支援もさらにそれに追加して載せていきたいと思う。

## (2)「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2021」の進捗状況および令和7年度新規・拡充事業について

◇事務局(山崎環境政策課長・羽鳥エネルギー対策係長・安田ゼロカーボン推進担当係長・今津企画調査係長)

<資料2-1、2-2に基づき説明>

#### ◆秋元委員

・認知度を上げるためには啓発が必要ということは説明を聞いて納得した。啓発の効果ということに関して、行動変容をどのように促すかということが一番大きいと思っている。特に脱炭素に向かって行動変容をどのように促していくか、宣言をした方に実際どのように行動へ移ってもらうのかということがとても重要になってくる。

・企業も個人もどのように行動が変わっていくのかというところで、千代田区の特徴として、大企業から小規模事業者まで多くの会社があるので、先ほどの行動変容アプリとの連携などを活用し、行動変容を促すような仕組みづくりができるといいと思う。

・大企業から小規模事業者までいる中で、ソリューション関係の会社も千代田区には多く在籍していると思う。そういったソリューション関係の企業と中小企業のマッチングや大企業同士のマッチングなど、脱炭素に資するような動きやそういったものの支援などをするといいのではないかと思う。私の意見としては、もっと地域資源を活用して行動に移るような仕組みづくりができるといいのではないかと思った。

#### ◇川又ゼロカーボン推進技監

・まさに様々なリソースがあることは千代田区の特徴で、いろいろなところと連携してやっていくという形でこの宣言も進めていきたいと思っている。

・千代田エコシステムの検討委員会においても、企業間で協働したり意見交換できる場を作ればいいのではないかという話もあり、そういったことも今後やっていきたいと思っている。行動変容アプリについても、現在ある会社と検討して一緒にやっけていかないかという話もしている。水面下でやっている部分もあり、明快に今ここで話せないこともあるが、今、秋元委員から頂いたご意見は私も非常にごもつともだと思うので、そういった方向で今後さらに進めていきたいと思う。

#### ◆三坂委員

・参考で頂いた予算の中で、昨年度ヒートアイランド対策計画を見直した中で予算が半減になっていることが少し残念だったが、また令和7年度以降に期待したいと思う。

・グリーンストック作戦の中で、執行率7割ということだが、助成の中ではどの項目が多いのか。

・区とは別に都で蓄電池などは大きな補助が出ていて、その補助金と併用はできないと思うので、都の補助を使う方が多いと思う。その普及状況などはどうか。

・環境計画書制度の内訳のところ、計画の段階で何%という数字があるが、これはその竣工時の確認などを進めてあるのか。

#### ◇事務局(山崎環境政策課長)

・まず予算について、ヒートアイランド対策計画を作ること自体にお金がかかっていた。計画が策定されその分が減っているの、それほど大きく減ったというイメージではないかと思う。

#### ◇事務局(羽鳥エネルギー対策係長)

・グリーンストック作戦の助成制度の件について、執行率の中で大半を占めるのはLED照明。こちらは50%の助成率にしてから事業所向けのLEDの申請が多くなっている。住宅も多いが、それに比べると事業所のほうが多いという結果になっている。

・また、東京都の補助金と併用は可能。特に断熱二重窓は、国・東京都・区を併用して活用している方もいる。

・建築物環境計画書制度について、資料に掲載した届出件数やCO<sub>2</sub>削減量は届出段階のものである。最終的には完了時に実際どのくらいになったかを提出してもらい、それを基にこちら

の環境計画書制度でどのくらいのCO<sub>2</sub>が削減されたのかという実際の数値を把握している。

◆崎田委員

・せっかくいろいろな助成制度があるが、執行率があまり高くない印象。こういった制度をしっかり使ってもらい、地域の温暖化対策に貢献するということが大事だと思う。そういうことがあって今、いろいろなネットワークを拡充するという話が出てきているのだと思うので、ぜひそういう流れでつなげてほしい。

・千代田区温暖化配慮行動計画書制度について、千代田区は非常に大規模な事業者も多く、環境の大事さをとても理解していて投資もしてしっかりやっている。一方、なかなか投資が大変な中小事業者などもあり、こういった大変なところを応援できるような、表彰されると地域の中でとても元気になれるような、そういうような雰囲気をつくってほしい。受賞したら翌年の環境行事では、スピーカーとして登場するなど、何かそういう楽しい、嬉しい制度というか好循環を作れるといいと思う。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・省エネ助成の執行率について、今回の資料においては12月時点の数値で70%以上。昨年度は90%以上だが、まだ金額としてはあるので、今後はLEDから二重窓の断熱の省エネなど、皆さんに申請してもらえるような努力をしていかななくてはいけないと考えている。

・また、千代田区温暖化配慮行動計画書制度について、まだ提出いただけていない会社も多々あるので、先ほどから説明をしている宣言と絡めて、計画書を提出していただきたい。そうすることで母数が増え、この賞に対する価値も上がってくるのではないかと思う。

◆久保委員

・私たち中小企業者にとって、LEDについては取り掛かりやすく、安くてすぐに実行できるものだが、それ以上に電力を消費しているのは空調である。空調についての対策も中小企業者で取りかかれるような仕組みを考えていただくと大変ありがたい。

・説明のあった次世代ソーラーセルについても非常に興味深いため、ぜひ推進していただきたい。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・LEDについては今非常に補助割合を高くて推進しているが、東京都のLEDについての補助は令和8年度までを予定している。それ以降は廃止するか延長するかは現在未定で検討中とのことだが、蛍光灯の製造自体が2027年に終了予定で、現状としてLEDにせざるを得ない状況である。今後はその他の省エネなどに目を向けていかなければいけない。

◆松本委員

・ちよだ環境フェアに参加し、再生家具の無料抽選会や子ども服の交換会など、とてもありがたかった。それを子ども同士で話したようで、お子さんのお母様から「どこでもらったのか」と連絡があった。ちよだ環境フェアなどのイベントがあると、学校や保育園、幼稚園に紙のチラシを配布していると思うが、小学生になると紙で配布されてもリアルタイムでは確認しないこと

がある。せっかく紙で配布しているにもかかわらずイベントが終わってから見てしまうということがすごく多い。今、小学校や幼稚園で使っているオンラインの「すぐーる」にてイベントの開催に関してご案内いただくと、保護者が直接確認できるのではないかと思う。区内の学校と連携するなかで、そういった点を学校へもっと訴えかけていただくとすごくありがたいと思う。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・周知の仕方としては、広報紙がメインである。学校については全校生徒へ配布となれば5,000~6,000部刷って渡さなければいけないが、送付すれば高確率で親御さんに届く。そうではなく各学校へ数十部送付し、お知らせで掲示してもらおう方法だと、お子さんが見て親御さんへそれを伝えるかというとなかなかそういう話にならない。そのような点で「すぐーる」というのは非常にいい媒体だと考えているが、現状「すぐーる」は学校のお知らせ以外はない状況。様々な区の催し物の周知を「すぐーる」にて実施してほしいという話は子ども部へ働きかけたが、区の催し物の周知を全て実施してしまうと、「すぐーる」自体をもう見ないようにされてしまうのではないかという声が所管や学校であるよう。親御さんからお子さん経由で言うただけだと助かるというのが本音。

### (3)第5次千代田区一般廃棄物処理基本計画の策定について

◇事務局(柳清掃事務所長)

<資料3-1、3-2に基づき説明>

#### ◆崎田委員

・2050ゼロ・ウェイストを目指すと言っているのは東京の中でも初めて、あるいは日本の中でもいくつかの自治体に限られている。今、ゼロカーボンという大きな宣言について国全体で推進できているのも、皆さんで考え、皆さんで実施すべきことを組み立て、そこまで皆さんで歩もうという高い目標を掲げているからである。このゼロ・ウェイストに関しても高い目標を掲げているが、この目標に向けて区民や事業者の方も一緒に情報交換等をして、皆さんで取り組んでいくという、そういう流れができたら嬉しい。ぜひ皆さんも、目標は高いけれど、今何ができるかを一緒に考えながら作っていくのだという、そういう計画だと感じてもらえる嬉しい。

#### ◆渡邊会長

・基本計画の前半で千代田区の状況が非常に細かく統計として載っていて、それが施策に結びつくプロセスがよく分かるものになっている。  
・2050ごみゼロにするというところで、現在何をしなくてはいけないのかというバックキャストिंग的な発想で計画を立てているということで良いか。

#### ◆崎田委員

・ゼロカーボンの考え方と同じようにバックキャストिंगの考え方で現状の課題を把握し、状況をしっかりと理解しながらそれをどう解消するかということで考えている。  
・今回、新規の施策も多くなっているが、今まで3Rが大事だと言ってきたことが変わるわけで

はない。例えば施策2「リユース」でいうと、「リユース食器の活用」「リペア」「連携」などは、今まで私たちが取り組んできた3Rを大切にしつつ、もっとブラッシュアップした形ということで、全く違うことを狙っているわけではない。

・環境省で循環型社会の今後の計画を作る際、今までの3Rとは違う「3R+Renewable」という考え方ができている。リニューアブルというのは例えば再生資源を使うこと、再生材を使うことなので、ただリサイクルすれば良いというのではなく、もう一回資源にかえすことが必要。そのためには私たちが資源回収するときに指定されたものをきちんと出すなど、そういう最低限の資源の質を高めるような協力が必要。そういう意味で基本方針2施策1「リサイクルと資源回収の拡充」のところには、「プラスチックの循環システム」などあるが、プラスチックについても新しくやり方を変えれば、きちんと資源としてもう一回回っていく。私たちの今の暮らしと密着する形で出てきている。

### 3 その他

特になし

### 4 閉会

◇事務局(山崎環境政策課長)

・次回の懇談会は7月頃の開催を予定。具体的な日程等については、改めて調整する。